

令和2年度 第2回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和2年度 第2回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和2年10月1日(木) 午前10時から午前11時50分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 4階 大会議室
4	委員出席者	春日委員、百瀬委員、宇田川委員、須之部委員、金井委員、笹本委員、高原委員、伊藤委員、古川委員
6	事務局出席者	山下文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、豊科近代美術館兼飯沼飛行士記念館荒深館長、田淵行男記念館曾根原館長、高橋節郎記念美術館黒岩館長、貞享義民記念館中村館長、臼井吉見文学館平沢館長、財津博物館係長兼新市立博物館準備室長、逸見博物館係主査、倉石博物館係係員、松田博物館係員、三澤文化振興担当係長、奥谷文化振興担当主任、内山文化振興担当主任
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	1人
9	会議概要作成年月日	令和2年10月15日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1 開 会

2 あいさつ

会長

- ・事業の中止や来場者の減少が今年度、感染症の影響は文化行政・博物館行政にとって大変な状態を招いている。
- ・今後の市の文化をどうしていくのか考えながら会を進めていきたい。

3 報告・協議

(1) 令和2年度各館事業進捗状況報告及び令和3年度構想について(資料1)

委員 豊科近代美術館で「器展～古代南イタリア土器から絵画の中の器まで～」というタイトルだが、古代南イタリアとはどの時代を想定しているのか。安曇野市ミュージアム活性化事業に関して、信州大学との連携で、オンライントークリレーを開催する。一般に広く来場者を得ることが難しい中、どういったことが可能か考え、こういう企画に結び付いている。また、来場者やアウトリーチという点で非常に苦労しているのが資料から伝わる。こういった時期だからこそ、作品調査や管理について進められた部分もあるのではないか。

豊科近代美術館長 展覧会名称は仮称である。器展を行いたいが、展示内容については検討中である。安曇野文化財団で所蔵するコレクションの中から、今まで公開できなかったもの(陶器・ガラス器)を中心に展示したい。他館から借りることも検討しているが、今年度の収入が減ったことから難しいかもしれない。

会長 遠方からの作品借用、予算的な問題いろいろと難しい問題があるだろう。この時期だからこそできたことをお知らせいただきたい。

豊科郷土博物館長 企画展を1つ中止したことから、堀金・三郷の資料館の民俗資料の整理を

行った。

委員 博物館構想について、こういった様子で進んでいるのか。市内の公立のみならず私立の館ともっと繋がっていけば、総合的にものを見ることが出来る博物館になると思う。

文化課長 昨年度、美術博物館について検討した。美術館と博物館でそれぞれ持っている資料は管理の仕方が違い、同じ建屋の中での管理は難しいのではと断念した。既存またはこれから廃止していく施設を利用しながら、老朽化した施設の資料を保管し、資料を整理していきたい。最近では公立施設のみならず、様々な施設にコンパクト展示を持っていき、活動を知ってもらえるようにしている。感染症の影響で不透明な部分もあるが、できることから行っていきたい。

会長 コンパクト展示は他市にない特色。人数と予算に限りがあるが、多くの方に博物館の大切さを知ってもらい、来館してもらうことが大切である。また資料の整理・保管も大切であり、市民には見えない部分であるが、地域の文化財もきちんと伝えていくことも、セットでできればと思う。

委員 催しの内容について、鑑賞者が主体的に関わっていく要素を増やしてはどうかと思う。博物館と繋がっているという感覚を持ってもらい、今後の話にはなるが、市民学芸員等、資料の整理や管理を共に行っていくことも良いと思う。

会長 市民との共同作業として行っていくことは大切である。身近な題材を取り入れると、「これ、家にもあるよ。」という話が出て、ともに成長できる展示になるのではないか。古文書等の整理については、市民の力を借りないと難しい部分もある。

副会長 現場の職員の苦闘や努力を各館で感じた。そんな状況ではあるが、館を出て民間施設等での展示を行っていくことも効果的だと思う。

会長 『明科の宝』という本が刊行された。豊科郷土博物館が中心となりながら、地域とともに、地域の宝を発見するという新しい方法を、記録として残していることを評価したい。

委員 田淵行男記念館について、来年度の構想に自然環境の整備とあるが、この関係の今後の担い手の育成はどうなっているのか。フィールドを生き物のモニタリングする場所として継続的に生かしていくこともできる。コンパクト展示については、どのように申し込んでもらっているのか。いろいろな繋がりを感じる。

田淵行男記念館長 山葵畑の上に建てられた本館であるが、周りには蝶の食草も生えている。今年は感染症の影響で人数が少ないが、例年市内の児童・生徒にも展示とともに植物と昆虫を見学してもらっている。また今年度は行えていないが、子ども自然観察教室「むしの会」も月 1 回行ない、館のまわりを整備しながら、次世代を担う子ども達が自然に触れ合う場を提供している。

新市立博物館準備室長 コンパクト展示は昨年度末までに 33 テーマ作成している。今年度は、前回の協議会でいただいた意見を参考に疫病をテーマにしたものも作成し、展示した。申込について、本庁舎の文化課または文書館の方へご相談いただければ、申込書を記入していただき、希望の展示場所までお届けする。

会長 景観づくりも観光客の誘致に非常に大きな意味を持っている。館内を見てももらうことも勿論だが、全体の景観も大切である。

委員 感染症下ではあるが、来年度の計画の上で、どういう観点で企画していくのか。また、コンパクト展示について、この状況下において新しい展示形態のヒントになるのではないかと思う。ほりでーゆ〜四季の郷での展示も行っているが、別件で施設を訪れ、偶然展示を見た子ども及び保護者の関心をつかみ、それが来館につながられると思う。保健センターでは乳幼児の検診や子育て相談が行われている。昔の出産と子育て、七五三の様子等、地域の歴史的なものを展示すれば、自分と結び付けられるものとして面白いのではないかと思う。

豊科郷土博物館長 企画展を1つ減らし、資料整理を行っていききたい。市内の学校で行う「昔のくらし体験教室」など、実物を見て触っていただき、その解説を行う機会を設けたいが、なかなか行えていない。

会長 コンパクト展示は入口であり、実物を見てもらうためのきっかけである。今まで多忙で中々できなかった整理を、今だから行っていくということ、各館ともこの機会に考えてもらいたい。

豊科近代美術館長 今年度中止になったものについて、来年度は復活する予定であるが、今年度の収入減などもあり、特別展については限られた予算の中で工夫をしたい。工夫の1つとして収蔵作品を活用する機会を多くし、様々な角度から鑑賞してもらえるようにしたい。

田淵行男記念館長 田淵行男賞を今年度公募し、受賞者の展示を行う予定であったが、中止となった。次回は5年後の開催となる。来年度は、従来のおり1階を田淵作品の展示、地階を田淵ゆかりの作家の展示として行っていききたい。

高橋節郎記念美術館長 夏の企画展について「そば猪口アート公募展」が10周年を迎える。公募と併せて過去の受賞作も展示したいと考えている。毎年行ってきたことを絞って、その年に相応しい企画を行っていく。また、調査・研究という点で高橋節郎のエピソードを関係する方々から集め、2023年が開館20周年になるため、そこに向けてエピソード集を作成し、展覧会も併せて行いたい。

貞享義民記念館長 今年度は企画展示に関連したイベントが全て中止になっている。ただし、来館者と共に作るという意味で重要だと思っているため、今後はやり方や場所を変えて、できる範囲で実施していきたい。また、毎年11月に「おしゅん」の朗読会を行っているが、今年は中止とし、代わりに松本市制100周年記念事業として上演された「靱は死なず」を豊科交流学习センターにて上映する。上映会を通して、貞享騒動を少しでも知ってもらえればと思う。

臼井吉見文学館長 昨年度の入館者の内、三分の二が県外から訪れた方々であった。その分を補うことは情勢的に難しい。市内学校でのイベントへ積極的に参加し、安曇野という言葉を広めた臼井吉見について、小中学生に知ってもらえるようにしている。今後も続けたい。また来年30周年を迎えるにあたり、本館のあゆみや、特徴的な友の会の活動について講演会を行い、取り上げたい。

委員 作家と鑑賞者を上手く結びつけ、作家の制作過程が目の前で見られる展示や作品解説が行われると、もっと身近に感じられ、鑑賞者が作品にもっと興味を持っていくきっかけになるかと思う。

会長 収蔵品の充実度によっても異なるが、各館ともできる範囲で行ってもらいたい。

委員 先日、明南小学校での作品鑑賞会を行ってもらった。市内6館に作品等の解説をしていただき、とても良かった。是非予算をとって毎年市内全校で行ってもらいたい。子どもの後ろには保護者の方々がいる。担任の先生より「是非うちの子どもにも見せたい。」との感想もあった。

会長 学校の背後にいる保護者の方も含んで事業ができていければと思う。

## (2) その他

事務局 今年度第1回博物館協議会にて、文書館及び安曇野市誌編さんについて情報が欲しいとの意見があったため、資料を配布させていただいた。

委員 市史について、市民が参加しながら作り上げていく内容などはあるのか。

新市立博物館準備室長 現在、市誌編さん委員会を立ち上げ、そちらで内容について意見をい

ただいている。ふるさと応援団の方にも委員として参加していただき、市民との連携の仕方など意見をいただいている。インターネットを活用し、調査への情報提供や写真の提供の依頼なども発信して、市民の協力も得ながら事業を進めていきたい。

会長 全体像をきちんと広い視野から作っていくことも大切。地域のことを地域ごとに住民たちが学ぶという『明科の宝』のような動きと、両方が動いていくことで、安曇野市の理解がさらに深まっていくのではないか。専門別になってしまいがちだが、市民の参加により円滑になる部分もある。

委員 どの館に行けば、どのような作品を鑑賞できるのかというような内容があればと記載されていれば思う。

会長 本日の意見について、各館予算や人員が限られているため、できることから行ってほしい。

4 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。